

誰も置き去りにしない、
生き抜く力にあふれた
子どもたちを育むために



インフォメーション

心に届けるおすすめコンテンツ

親子の信頼関係を深める 「コーチング」

学校でも、会社でも教えてもらえない
コミュニケーションの技術を、ぜひ
使ってみませんか？

ご視聴は二次元コードから



気づきが得られる 学びの動画！

ニッケ教育研究所

理事長 **楠本 景央** 氏



さわやかな出会い

新緑から梅雨へと移り変わるこの頃、私は毎年、
一年で最も清々しい時季だと感じています。
そんな折、心に残るさわやかな出会いがありました・・・

ご視聴は二次元コードから



スマホで読める 感動のコラム！

ニッケ教育研究所

顧問 **勝本 孝夫** 氏

元・大阪市立榎本小学校校長
元・大阪市立姫里小学校校長



一般会員募集

私たちと一緒に、「子どもたちが生き生き伸び伸びすごせる環境づくり」に参加していただけますか？
子どもたちは“未来の宝”です。私たちが発信する未来の宝を育む情報を、学校・家庭・地域で
是非ご活用ください。入会のお申し込みは、ホームページでご案内しています。

編集後記



「我々企業人が教育にどのように携わることができるのか？」は当研究所の設立当初からの問いかけ
でした。教育関係の方々から教育現場での様々な取組や子どもたちへの想いを聞かせていただき、「学
校グランドデザイン」が教育の目指す姿と具体的な活動とを結びつける「橋渡し役」であると感じました。
企業でのパーパス経営の手法で「学校グランドデザイン」構築ができるのではないかとこの仮説をもって、
実践へのチャレンジとなりました。田島南小中一貫校でのディスカッションを通して、皆さんの教育に対す
る熱い想いに触れるとともに、「学校」という場のあり方も変化していく必要があるのではと感じました。学
校が、多様化する個々の子どもたちが尊重され、「安全・安心な場」であるとともに、人との繋がりです
子どもたちの「成長を育む場」となるように、今後もより良い支援を続けていきたいと考えています。

一般社団法人ニッケ教育研究所
理事長 楠本 景央



未来 Watch みらいウォッチ

生き抜く力にあふれた子どもたちを育むコミュニティー・・・

特集

未来につなぐ学校づくり 第7回

「心和中学校」って、どんな学校？

～ 学びの多様化学校、開校から1年が経過して ～

私がつくる子どもの笑顔 第18回

人を育てる

～ 懸命に育てた種は、良い苗となり、大樹と育つ ～

特別企画

学校グランドデザイン

構築プログラムの実践

インフォメーション

心に届けるおすすめコンテンツ

※写真は宮古島（沖縄県）です



子どもたちは、やがてより広い社会との関わりを持っていくことになります。その未来を輝かせるために、必要な力を身につけておくことが大切です。ここでは、中学生世代の子どもたちの教育について、現職の校長先生に考え方や具体例を紹介していただきます。

第7回は、大阪市立心和中学校の盛岡栄市校長です。

第7回 「心和中学校」って、どんな学校？ ～ 学びの多様化学校、開校から1年が経過して ～

《大阪市立心和中学校》 もりおか えいいち 盛岡 栄市 校長



本校（大阪市浪速区）は、文部科学省の認可を受けた「学びの多様化学校」として開校してから、1年余りが経過しました。2025年4月現在、「学びの多様化学校」は全国で小・中・高、公立・私立を合わせて63校（※）あります。しかし、募集方法や教育内容、授業の進め方などは、学校ごとに大きく異なっています。それぞれの学校では、地域性や開校までのプロセスを踏まえ、教育委員会と学校が話し合いを重ね、試行錯誤しながら教育活動を進めています。※ 小中一貫校は小学校及び中学校にそれぞれ計上しているため学校総数と一致しない

学校教育目標

学ぶことの喜びを実感し、自らの可能性を広げられるような教育の創造

本校では、開校時より「生徒ファースト」の考えのもと、生徒の自己選択を基本として取り組んできました。行動や服装、持ち物についても、そのほとんどを生徒の自主性に任せています。ただし、まだ開校から1年しか経っておらず、この方針が必ずしも正しいとは限らないと考えています。

昨年度もさまざまな取組や方針について、その都度「生徒にとってどのように取り組むことが良いのか」「自尊感情を高め、自主性を育てるためにはどうすれば良いか」といったことを教職員で議論し、進むべき方向性を確認しながら、多様な学びを提供する学校としての教育を進めてきました。

また、本校は、不登校を経験した学齢期の生徒が通う昼間部と、さまざまな理由で中学校の教育を十分に受けられなかった学齢期を超えた生徒が通う夜間部の、二部制を採用しています。実技科目を中心に、昼間部と夜間部の生徒と一緒に授業を受ける機会があり、双方にとって教育的効果があると考えています。



学年の名称に込めた思い



各学年に思いを込めて、1年生を「楽」、2年生を「道」、3年生を「夢」と名付けて呼んでいます。「卒業する時には、自信と夢をもち、力強く羽ばたいてほしい」という願いも込められています。

- | | | |
|-----|---|------------------------------------|
| 1年生 | 楽 | まずは、学校に来て楽しんでほしい、学校を楽しんでいるほしい |
| 2年生 | 道 | 将来に向かって進むべき道、生きていく道を先生方と一緒に探してほしい |
| 3年生 | 夢 | 自ら決めた進むべき道に夢をもち、その夢を実現するために努力してほしい |

主体的に学校生活をすごせる安全・安心な環境をめざして

教育の特徴〈昼間部〉

- ✓ 校則や標準服、指定カバンなどは設けていません。携帯電話などの持ち物も自由です。
- ✓ 学年ごとに教員団を決めています。生徒一人ひとりの担当となるチューターは、生徒自身が選択することを基本に決めています。
- ✓ 5教科の授業は、複数の教科担当による習熟度別の分割授業やTT（チームティーチング）で行っています。ただし、授業への出席は自己判断に任せており、出席しない場合は図書室で自習したり、リラックスルームで休憩したりできます。
- ✓ スクールカウンセラーを週5日配置し、いつでも相談できる体制を整えています。



生徒の声、保護者の声から見てくこと



生徒アンケートより

学校に行くのは楽しいですか？ 肯定的な回答65.1%

この数字を高いと見るか低いと見るかは人によって違うと思いますが、毎日登校している生徒の中にも「楽しい」と感じていない生徒がいるのは事実です。今後、日々の関わりの中で個々の生徒の心情や状況をより深く把握することが、必要不可欠であると痛感しています。

心和中に転入して良かったですか？ 肯定的な回答97.6%

オンライン参加の生徒も含め、ほぼ全員が「転入して良かった」と思っていることは、私たち教職員にとって何よりも嬉しい結果でした。

おわりに

本校の校舎内には、教育委員会事務局の分室である登校支援室があり、登校支援室と本校が連携して、大阪市における不登校課題に取り組むネットワークの中心的役割を果たしていくことが求められています。これまでも、市立幼・小・中学校の教職員を含め、市内の教育関係者が多数本校を視察に訪れました。また、私は校長としてさまざまな団体から依頼を受け、各地に出向いて本校の取組



地域やさまざまな関連企業・機関の支援を受け、個別のニーズに合わせたキャリア教育を推進しています。



毎月1回「お楽しみ会」を設定し、生徒の実行委員会を組織して、自分たちの活動を自分たちで企画・運営できるようにすることをめざしています。



eスポーツやドローンを活用した授業を行い、生徒の興味・関心を高め、主体的に学ぶ姿勢を育成しています。

初年度の生徒数〈昼間部〉

2024年度	1年生	2年生	3年生	計
前期【4月転入】	—	6人	20人	26人
後期【10月転入】	9人	24人	7人	40人
前後期合計	9人	30人	27人	66人

生徒の出席状況〈昼間部〉

月によって多少の差はありますが、対面での登校率はおおむね60%です。オンラインでの学習参加も出席として認定しており、これを含めると出席率は約70%になります。ただし、1年間通して見ると、前期の対面登校率は70%強であったのに対し、後期は約55%と、昨年度は後期になるとやや出席率が低下する傾向が見られました。

また、個々の生徒の状況を見ると、ほぼ毎日登校できる生徒と、そうでない生徒に二極化しています。そのような状況ではありますが、前籍校ではほとんど登校できなかったが、本校では**毎日登校できるようになった**という生徒が数多くいることは、大きな成果だと考えています。



保護者アンケートより

すべての先生方に感謝しかありません。学校を作ってくれたこと、**小さな問題でも丁寧に向き合ってく**ださること、お心遣い、本当にありがとうございます。心和中学校の先生方によって、これからも一人でも多くの不登校生徒の家庭が救われることを、心から願っています。

オンラインで授業を受けることができ、リラックスルームのような、**教室や保健室以外の居場所**を作っていただいている事はすごくありがたいと思います。転校して4月から少しずつですが、家庭での表情や会話の内容が明るく前向きになってきています。

についてお話ししてきました。

そのような視察や講演に対する感想文を読ませていただくと、本校の取組や施設・設備からヒントを得て、「明日からここを見直したい」「こんなことをしてみたい」「こんな部屋を作ることを検討する」など、不登校課題に対する前向きな意見が数多くありました。今後も、共に不登校課題について考えていきたいと思っています。

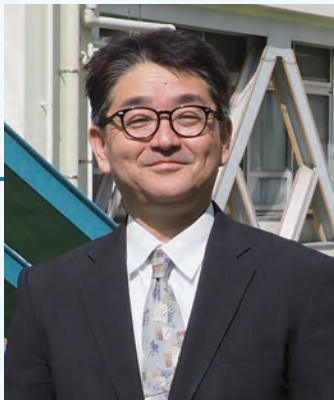
私がつくる 子どもの笑顔

第18回 人を育てる ～懸命に育てた種は、良い苗となり、大樹と育つ～

《大阪市立矢田北小学校》 しみず けんじ 清水 健司 校長

本校（大阪市東住吉区）は1975年に創立され、今年度創立50周年を迎える、全校児童168名の小規模校です。保護者・地域に見守られながら、子どもたちは毎日健やかに成長しています。また、矢田地域の7校と連携し、「矢田はひとつ」の理念のもと、一人ひとりを大切に、お互いを認めあう教育を日々推進しています。

※ 矢田7校・・・やたなか小中一貫校・矢田東小・矢田西小・矢田北小・矢田中・矢田西中・東住吉支援学校



学校教育目標

互いの人権を尊重し豊かな心を持ち、ともに生きようとする子どもを育てる

めざす子ども像

豊かな人間性とたくましく生きる力を身につけた「矢田北っ子」の育成

- 【や】・・・ やさしく、思いやりのある子
- 【た】・・・ 楽しく学習する子
- 【き】・・・ 協力しあう、仲のよい子
- 【た】・・・ たくましい子

子どもたちを迎える

新任の頃、先輩に「教室で子どもを迎えることが大事やで！」と教わりました。毎朝教室で、「おはよう！」「昨日何して遊んだ？」と声をかけると、一人ひとりの表情がよく見えてきます。表情が曇っている子には、「どうしたん？」と聞いてあげるだけで、その子の表情が和らぎます。毎日のコミュニケーションの中で、「先生は味方やで。なんでも相談してや」と子どもたちを認め、寄り添うことが大切だと感じます。こうした日々の積み重ねが、子どもたちの心の安定や自尊感情の高まりにつながるのではないのでしょうか。

校長となった今は、正門で子どもたちを迎えています。「昨

日、公園で遊んでたね」「算数の発表、頑張ってたね」と声をかけると、子どもたちは「にこっ」とします。遅れて登校する児童には、「あと5分早く出発しいや！」「もうちょっと頑張らな！」と励まします。気になる児童がいれば、担任と連携し、児童にとって良い方向に進むよう、チームで対応するようにしています。



児童会活動（なかよしいっぱい げんきいっぱい たのしいっぱい）

なかよし班

本校の児童会では、異学年集団児童の望ましい人間関係の形成や、集団の一員として協力することを目的に、なかよし班（1～6年生の異学年で構成されたグループ）を編成しています。児童集会や「やたきたまつり」「なかよし給食」などの活動を通して、児童同士の交流を深めています。その際、6年生はリーダーとしての自覚を持ち、自尊感情が育まれます。また、低学年児童にとって6年生は憧れの存在となり、「高学年になったら、こんなふうになりたいな」とイメージできる

良いお手本となります。普段の休み時間には、異なる学年の児童と一緒に遊ぶ姿が見られます。このように、矢田北小学校の児童は、どの学年の児童も優しく、思いやりにあふれています。

「やたきたまつり」での交流▶



『きたりん』誕生

創立50周年を記念して、マスコットキャラクターを作成することになりました。「子どもたちの意見を大事にしたいね」と児童会担当者と話し合い、全校児童からキャラクターを募集することにしました。「創立50周年をみんなでお祝いしよう！」という全校児童の思いを児童会役員で話し合い、マスコットキャラクター『きたりん』が完成しました。「思いやりあふれる矢田北小学校のみんなでありますように」という願いを込めて、「きたりん」には、矢筈に四葉のクローバーをあしらった矢を持たせています。



地域とともに 地域で育つ

子連協（子どもつながり連絡協議会）の取組

矢田7校の児童会・生徒会が連携し、子連協（子どもつながり連絡協議会）として活動しています。「平和と人権を考える矢田子ども集会」や「矢田地区フィールドワーク」「春ごと復活矢田子どもまつり」など、さまざまな取組を進めています。中学生を含めた地域の仲間とともに活動することで、小学校の枠を超え、さらに広い人間関係を学ぶことにつながっています。



人を育てる

経済団体が実施したアンケートによると、「入社試験の評価ポイントとして重視されるものは？」という内容の問いに対し、91%という圧倒的多数が、「人間力」や「非認知能力（点数で測れない能力、リーダーシップ、コミュニケーション力など）」を重視すると回答しました。一方、教育基本法第一条（教育の目的）には、「教育は、人格の完成をめざし」と記されています。

おわりに

「懸命に育てた種は、良い苗となり、大樹と育つ」「子どもを育てることは、汗や泥にまみれる大変な作業だ。その現実の中で、課題と向き合い乗り越えていく中こそ、真の教育の喜びがある」——かつて耳にした、この言葉を教育の原点

卒業おめでとう集会

毎年、卒業式前に児童会が中心となって「卒業おめでとう集会」を行います。6年生の卒業を祝い、お世話になった6年生に感謝の気持ちを伝える会です。1～5年生までの児童が、歌やよびかけ、メッセージカードのプレゼントをします。どの学年も真心を込めて準備しますが、一番プレッシャーがかかるのは5年生です。これまでは6年生の後をついていだけでしたが、今度は自分たちで企画から運営まで行わなければなりません。最後のあいさつでは、5年生の代表が涙を流しながら「卒業おめでとうございます。矢田北小学校のことは心配しないでください。私たちが頑張ります」と決意を述べました。こうした体験を通して、子どもたちは大きく成長していきます。



地域の見守り～子どもたちのために～

地域の皆様には、さまざまな取組を通して子どもたちを支えていただいております。「子どもたちのために」という思いに満ちあふれ、感謝の気持ちでいっぱいです。「朝の見守り隊」をはじめ、毎月の「子ども食堂」や「あそびのひろば」、「夜店と花火大会」「町民大運動会」「もちつき」などの行事を通じて、地域・保護者・PTAが連携し、子どもたちの成長を見守ってくださっています。昨年度、日本の伝統である「茶道体験」も行っていました。学校・家庭・地域が一体となって「子どもの成長」を見守ることの素晴らしさを、いつも感じています。



教育とは、「人を育てること」。日々の学習活動やさまざまな教育活動を通じて、学力の向上とともに豊かな心を育むことが大切だと考えます。人は一人では生きていけません。さまざまなつながりの中で成長していきます。学校は小さな社会であり、仲間とともに切磋琢磨し、成功や失敗を経験する中で人は大きく育っていくものと考えます。そういった**子どもたちの「学び」の支援者になる**ことが、私たち大人の大切な役割ではないでしょうか。

にしています。すぐには結果が出ないこともありますが、私たち（学校・家庭・地域）が注いだ情熱（水や肥料）は、必ず種に届き、やがて花開く時が来ます。子どもたちの成長を信じ、教職員とともに日々頑張っておりま

子どもたちが思う存分力を発揮できるようになるためには、子どもたちが「生き生き伸び伸びすごせる環境」を整え・つくる必要があります。その際の**基盤となるのが「学校グランドデザイン」**です。

社会環境が急速に変化する中、子どもたちが将来に備えるために今のような後押しをすべきか、大人たちは常に考えることが重要です。

このたび、田島南小中一貫校のご協力を得て、「学校グランドデザイン構築プログラム」を実践しました。4回にわたって意見交換を行い、そこから練り上げられた考え方を「学校グランドデザイン」というカタチに見える化しました。その取組をご紹介します。

(文責：ニッケ教育研究所 橋本立志)

学校グランドデザイン 構築プログラムの実践

1 コンセプトの共有

インターネットで検索すると、「学校グランドデザイン」は次のように定義されています。—— 学校が育てたい児童・生徒像に基づいて「**学校のめざす方向や果たすべき役割を描いた経営全体構想**」を示したもので、これを教職員・児童生徒・保護者を含めた地域社会と共有するため、各校の特色などをわかりやすく1枚の図に示したものです。

この考え方は、一般企業における「パーパス経営」に非常によく似た考え方と言えます。「パーパス経営」とは、「自社の社会的な存在意義（何のために存在するのか）を明文化し、定めた存在意義に従って会社を経営すること」です。

2 構築プログラムの進め方

導入として、ニッケ教育研究所が作成した**ケーススタディ**を**読んで実感を持ってもらう**のが当プログラムのユニークな特徴です。実際の学校や教育現場の具体例を基にしているため、

- STEP 0 ▶ ケーススタディを読んで、質問に対する自分の思いを整理してみる（事前準備）
- STEP 1 ▶ メンバー全員の意識をひとつにする（自身の価値観を整理する、学校長であるとの意識で考える、経営理念と使命を考える）
- STEP 2 ▶ 田島南小中一貫校のパーパス+ミッションを練り上げる
- STEP 3 ▶ パーパス+ミッション案を吟味し、ミッションステートメントを練り上げる
- STEP 4 ▶ メンバーで作り上げたミッションステートメントを基に、具体的に思索する
- STEP 5 ▶ 田島南小中一貫校グランドデザインを完成させ、教職員と共有する

大阪市立田島南**小**学校

大阪市立田島**中**学校



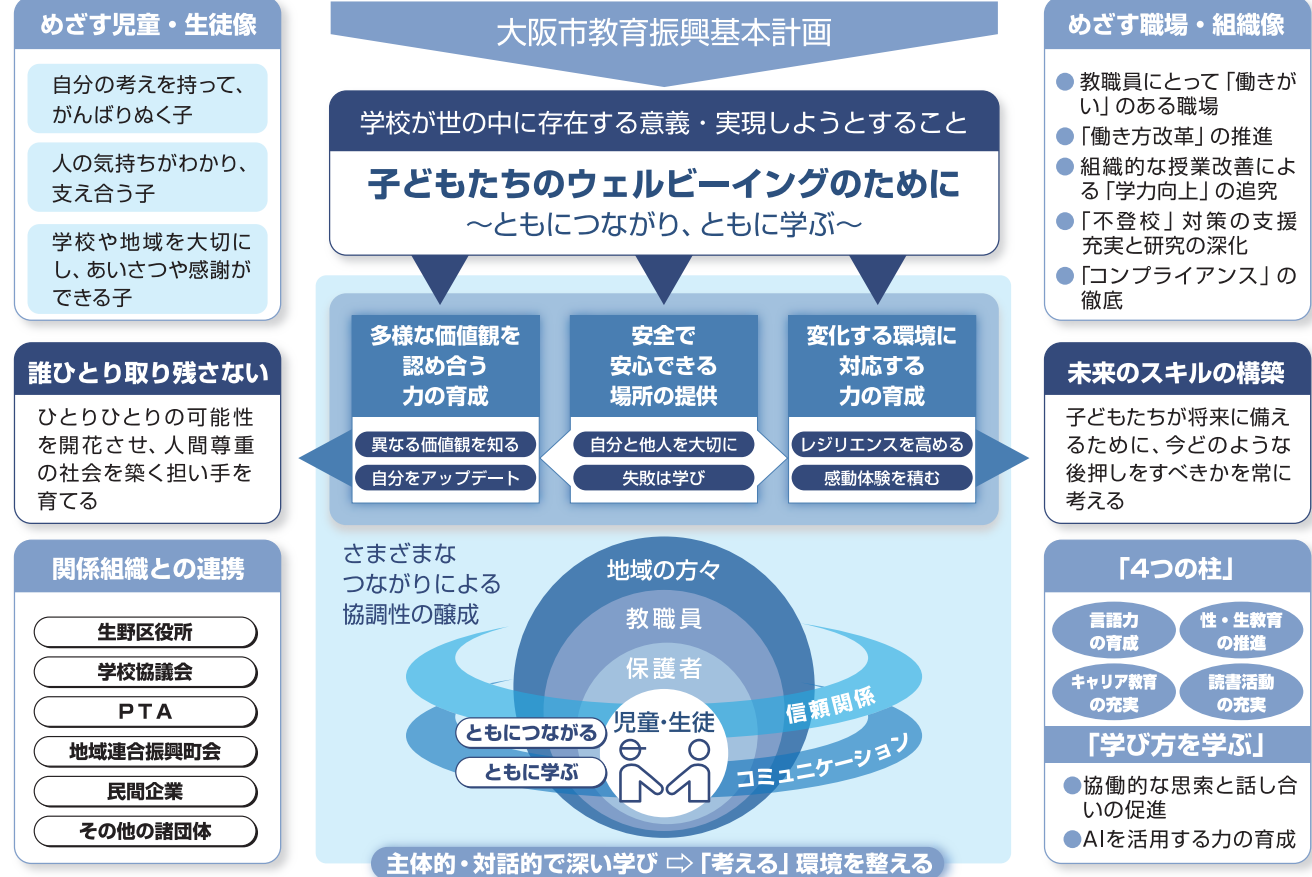
学校グランドデザインの内容について解説したハンドブック（計16頁）

学校運営は、非常に社会性の高い活動です。従って、社会性も含めた学校運営理念を構築したものが「学校グランドデザイン」になるのではないかと仮説を持っています。このような仮説に基づき、一般企業において「パーパス経営」または「経営理念に基づく経営」を進めてきた方法が、「学校グランドデザイン」構築のプロセスとして活用できるのではないかと考え、プログラム化しました。



理論だけでなく**実践的な視点からグランドデザインを立案**できます。これにより、現場課題を取り入れた設計が可能になります。まずは管理職で練り上げます。

田島南小中一貫校グランドデザイン

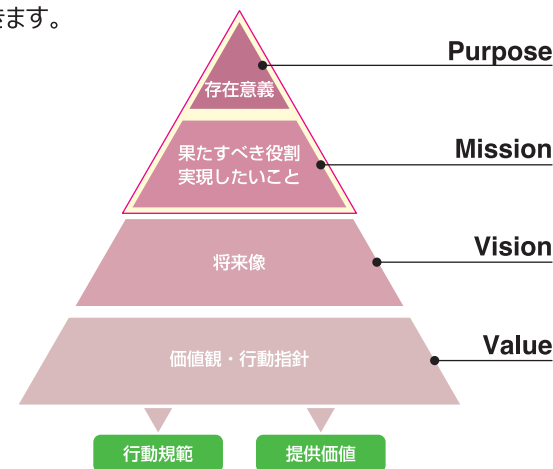


3 「パーパス + ミッション」が全ての根幹

なぜ存在するのか？そのために何をするのか？

「パーパス+ミッション」が、持続可能な学校づくりを支える「学校教育目標」になります。検討と議論を重ね、厳選した言葉で**簡潔**に表現し、**明確**に伝わるようにする必要があります。

企業では、「パーパス+ミッション」は単なる理念ではなく、企業文化や戦略全体に浸透させるべき重要な要素です。これにより、企業は社会的責任と経済的成果を両立させながら、ステークホルダー全体から信頼と支持を得ることが可能になっていきます。



ニッケ教育研究所では、引き続き「学校グランドデザイン構築プログラム」をブラッシュアップしていく予定です。

解説（ミッション）

ともにつながり、ともに学ぶ

世の中の変化は速く、現在必要とされている知識や技術は5年後・10年後には全く異なるものになっていることが予想されます。また、人と人とのつながり方も大きく変化していきます。

子どもたちは、様々な「つながり」を持つことで協調性を育んでいきます。その「つながり」は、子どもたち同士だけでなく、教職員・保護者・地域の方々との幅広いものです。

田島南小中一貫校は、同じ学校に通う子どもたちの間だけでなく、教職員はもとより、保護者・地域の方々との「つながり」においても、一人の人間としてお互いに良く「つながり」を作ることを進めていきます。

また、これからの社会では技術の進化により、今までとは異なる能力が求められるようになってきます。田島南小中一貫校では、コミュニティの力も借りて、子どもたちと教職員がともに今後の社会で必要とされる能力を学んでいきます。

「教える側」と「教えられる側」という関係ではない新しい教育の形を追求していきます。

ハンドブック～「パーパス+ミッション」について解説したページの一部

※ 当プログラムに関するお問い合わせは、下記まで。
E-Mail : info@nie.nikke.co.jp